

本当はどれ？

なりたい療法士がこれでスッキリ!!

君にどの療法士が向いているか探してみよう

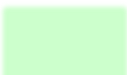
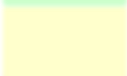

理学療法士
作業療法士
言語聴覚士



リハビリテーション専門職種である理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を目指すみなさんが、それぞれの資格に関する職種理解をより深める事が出来るリーフレットを目指して作成いたしました。進路決定の参考にお役立てください。

使い方

◎PT・OT・STが、領域ごとにどんな活躍が出来るかを紹介しています。
 1. 枠内の文章を分野ごと（たて列）によみます。
 2. 興味のある枠の数を右側に書きます。

-  理学療法の特色が書かれています
-  作業療法の特色が書かれています
-  言語聴覚療法の特色が書かれています

発達分野

子どもたちが、いきいきと生活するための手助けを行います。また保護者から話しを聞き、お子さんの発達に対する不安を和らげるような支援を行います。

主な対象
 ・運動の発達が遅れている子どもたち
 ・ことばの発達が遅れている子どもたち
 ・コミュニケーションが上手く取れない子どもたち
 自閉症、脳性麻痺、学習障害、ADHD

身体分野

病気やけがの影響で、「身体が動かない」、「手を使って生活出来ない」、「言葉が話せない・聞こえない」など不自由を抱えた人々の支援を行います。

(脳血管障害、変性疾患、交通事故、骨折)


老年期分野

リハビリテーションの中でもっとも多い対象の一つです。誰も老いは訪れ、避けることのできない身体機能の低下や、認知機能の低下が起こってきます。そのような中、少しでも自分らしく生活するために手助けを行います。

(認知症、変形性関節症、筋力低下、嚥下障害)

地域

病院だけでなく、退院後の地域での生活こそが本来の人生！行政や企業・地域の団体などの人々と連携して支援します。



研究

私たちが行った研究はよりよいリハビリテーションの開発、発展に繋がります。社会に貢献します。

研究対象例
 ・運動機能や脳機能について
 ・人の生活や心理について
 ・音、声、聴覚機能について

得意分野

同じリハビリテーション専門職種ですが、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士には、それぞれが他資格には真似できない専門性を有しています。その中でも特に紹介したい分野をそれぞれ記します。

PT: スポーツ支援
 OT: **こころの支援**
 ST: 心理面・コミュニケーション支援

いくつあてはまったかな？

脳性まひ等のからだの運動に不自由をもつ子ども達に、上手なからだ(手足体幹)の使い方を教え、成長に伴った運動機能発達を支援します。近年では知的な不自由をかかえる子ども達に対する運動療法の効果も立証されつつあり、例えばスポーツなど、身体を動かすことを通じての支援も盛んです。


・運動発達評価
 ・神経発達学的アプローチ
 ・遊びを通した中でからだを動かす練習

身体をうまく動かすことができない場合は、うまく動かせるように運動療法を繰り返します。関節がうまく動かない場合は、関節の治療を行い、筋機能が低下していれば筋力を発揮できるように治療します。からだが上手に動くようになってきたら、起き上がり→立ち上がり→歩行へと、移動する能力の獲得へ進めます。

・理学療法評価(各種検査・姿勢分析・動作分析)
 ・運動療法
 ・物理療法

自宅や施設内の居室や廊下、風呂場など移動の際に、転倒・転落を起こさないような身体動作機能の維持～向上に努めます。また、認知機能面に効果的だと言われている運動療法や体操療法を実施し、認知症予防に努めます。

・高齢者の基礎体力の評価
 ・筋力などの基礎体力向上
 ・体操療法




人とつながる地域社会で日常生活を営む為に必要な移動能力。人の「移動」は、姿勢変換から始まり、立ち上がり～歩行を行って、目的地へ向かいます。到着までに、安定した移動が行えるように、身体機能改善をはじめ、バランス訓練、歩行訓練や階段昇降訓練などの応用歩行訓練・動作指導を実施します。

・運動療法
 ・体操療法
 ・保健事業

筋組織や神経組織そのものを追及する基礎研究をはじめ、運動能力の検証や診断画像を用いた実験的研究。他にも調査研究やリハビリの現場で行われる臨床研究など、幅広い研究が行われています。研究には顕微鏡や薬物、画像や動画、実際の運動能力の数値結果など、その対象は様々で、理学療法士は、からだを動かす「科学」を追求し社会に貢献しています。

◎スポーツ支援
 「どうしたら選手のパフォーマンスを最大限に発揮できるのか？」からだの動きを伴わないスポーツは無いといっても過言ではない。理学療法士は、ストレッチやテーピングはもちろん、選手のフィジカルチェックやトレーニング方法の指導や実践、傷害予防までを医学的に追求します。

・スポーツトレーナー
 ・障害者スポーツ支援




運動、知的機能、情緒面の発達を促す支援を行います。特に遊びを治療に取り入れ、一人一人の子供の興味関心に沿った治療を行います。その中で、日常生活上の様々な活動を自立して行えるようになります。時にはその子が通う幼稚園や学校を訪問し、先生方に適切な支援について助言します。治療の1つに、運動発達や集団への適応の遅れの原因となる、触覚や体の動きを感じるセンサーのアンバランスさを整えるための感覚統合療法を行います。

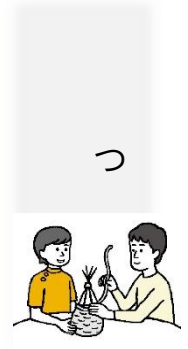
障害そのものを改善する治療だけでなく、効率的で安全な動作の方法や、一人一人の住まいにあった生活しやすい環境の調整も行っていきます。さらに、障害が残ったとしても、障害を補う道具の開発や、環境の調整を提案することで、あきらめていた作業(趣味、仕事、生活、外出など)が再びできるように支援します。作業療法では身体の回復のみならず傷ついた心の回復も図ります。

年齢や障害の程度に関わらず、その人らしい生活の定着にむけて、今持っている能力を最大限に発揮できる支援を行います。作業療法では、対象者の人生や今の思いをじっくり聞き、その人がどのような考えや価値観をもっているか分析します。これらを踏まえ、作業療法では、できないことよりも、できることに目を向け、できることを伸ばしていくことを重視します。このような観点から、その人らしさが損なわれやすい、認知症に対するリハビリテーションでは中心的な役割を担います。

日常生活がうまくできなくなった人に対して、実際に住んでいる場所や家、その人の動作を見せてもらい、どこに問題があるか評価します。これらの評価に基づいて動作の指導や道具の活用、環境の調整を行い、住み慣れた地域での生活が継続できるよう支援します。身体の機能だけでなく、心も含めた幅広い視点で、人の生活を捉えられる作業療法士は地域での活躍を期待されています。

人が作業(目的のある行為)をすることに焦点を当てた研究が中心となります。人が作業をするためには、脳の機能、身体の機能、心理、環境など幅広い要素が必要となります。人を包括的に捉える作業療法の研究の範囲は大変広くなります。数字におきかえられることの可能な数量的な研究(筋力などの身体の機能や生理組織)に限らず、数字には置き換えられないもの(人の心や考え、やる気、QOL等)を明らかにする、質的な研究も多いことが作業療法の研究の魅力でもあります。

◎こころの支援
 精神の病気では「他人が自分の悪口を言っている」などの幻聴や妄想、気持ちが落ち込むなど様々な症状があらわれることがあります。また、些細なことで混乱しやすくなったり不安になることもあるため、今までできていた生活ができなくなることもあります。そこで作業療法士は、必要な生活のスキルや自信をつけられるように、その人にあった練習やソーシャル・スキル・トレーニングを行います。また、その人の過ごしやすい環境や落ち込みやすい思考(考え方のクセ)を確認して、適切なアドバイスをします。さらに、就労・就学支援、当事者や家族からの相談を受けたり、適切なサービスを紹介したりします。実際に、働いている現場に向いて直接指導したり、企業との間に立って調整をするなど、障害によって対人関係や生活のしづらさを抱えている方々を幅広く支援します。



ことばの遅れや、コミュニケーションを取る事に困難さを持つ子どもに対して、ことばやこころの発達を促します。また、読み書きなど学習全般についても支援を行います。その他、食べる事(摂食・嚥下)など生活を行う上での支援を行います。

・言語発達検査・訓練の実施
 ・認知機能検査(知能検査)の実施
 ・読み書きの訓練 等

上手く声を出す事や発音をキレイにし上手く食べられるようになるための訓練を行います。また、食事環境や食材の検討を行います。また、聴力検査の実施や補聴器の調整等を行います。

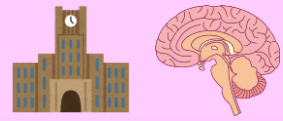
・発声訓練・構音訓練
 ・嚥下機能(食べる機能)の評価・訓練
 ・食材調整・食べやすい姿勢の検討
 ・聴力検査
 ・補聴器・人工内耳の調整など

高齢に伴う、また、認知症に伴うことばの障害、コミュニケーションの障害を持つ方に対して支援を行います。また、周囲の方にも調整を図り、コミュニケーションが行いやすくなるための支援を行います。

・脳機能検査の実施
 ・前頭葉(考える中枢)を中心とした脳活性化訓練
 ・言語機能訓練
 ・嚥下機能(食べる機能)の評価・訓練

生きる事の基本である「食べる事」の機能が維持できるよう、また、「話す事」により地域と繋がる事で早期より予防的訓練の指導を行います。また、地域の保育園などで子どもことばの発達状況を確認し、子どもから高齢者まで充実した生活となるよう支援を行います。

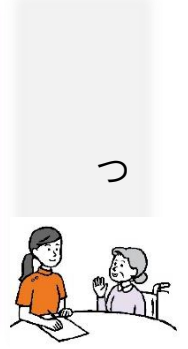
・嚥下機能(食べる機能)の評価・訓練
 ・言語発達検査・訓練の実施



ヒトの脳や身体、心の状態について科学的に研究を行い、より効果的な訓練手法の検討を行い、リハビリテーションの効果を高めます。また、リハビリテーション専門家の養成教育に携わる道もあります。

◎心理面・コミュニケーション支援
 心理面により生じる吃音(どもり)などのことばの障害や、脳損傷に伴う失語症などのコミュニケーション障害に対して詳細な評価を行い、その背景にある状況を捉えて、対象の方が安心して楽にコミュニケーションが取れる為の支援を行います。

・言語機能評価の実施
 ・言語訓練、環境調整
 ・吃音の評価や訓練、環境の調整



君はどの職種にあてはまったかな？

『あてはまった数の多い療法士が、
なりたい療法士なのかもしれませんね!!』

理学療法士から ひとこと…



私は、地域の整形外科・通所リハで働いていました。
身近な体の不調である肩こり・腰痛から、骨折や手術後のリハビリテーションなど、たくさんの方の患者さんの手足の関節や筋力を改善させる理学療法を行いました。
担当した患者さんが、上手に歩けるようになって退院で来たり、直接競技復帰の手助けなどを出来るところがこの仕事のやりがいです。

◎理学療法士を目指す学生達の声

- ストレッチや筋力トレーニングなどの方法だけではなく、そのメカニズムまで勉強できるところがいい。
- 自分がけがをして、理学療法を受けて部活動復帰出来たので、自分も理学療法士になってそういう人をサポートしたい。
- 障害者スポーツをみて興味がわいた。理学療法士として障害のある人たちを支援してみたい。
- 将来は病院で働きたいと思って、進路を探していました。白衣を着て仕事をする姿にあこがれて選びました。

作業療法士から ひとこと…



私は、総合病院に勤務し、病院から施設、在宅での作業療法を幅広く経験しました。その方の希望を踏まえてリハビリテーションを心がけ、身体の治療から生活の自立を図る支援を行い、多くの方が社会復帰を成し遂げました。
患者さんにとって意味のある作業を治療に取り入れることで、再び自分らしい生活を取り戻していく過程を共有できる事に、とてもやりがいを感じます。

◎作業療法士を目指す学生達の声

- 手を骨折した時の優しい先生が作業療法士でした。ハンドボールの大会前での怪我で、すごく落ち込んでいた時に、怪我だけでなく気持ちまで元気になってくれました。
- 料理が大好きな明るい母が、脳梗塞で倒れて半身不随になりました。麻痺が残った母は料理ができなくなり、別人のようになってしまいました。そんな母に作業療法士の先生は、料理を治療に取り入れ、しまいには片手でも料理ができるようにしてくれました。母はまた台所に立つようになりました。先生は明るい母を取り戻してくれたのです。私も作業療法士になって患者さんを笑顔にしたい!

言語聴覚士から ひとこと…



私は、神経内科がメインの病院で働いていました。
脳血管障害や、難病により、「ことば」が不自由となった患者さんや、食べる事(飲み込む事)に関して、難しさを抱えた患者さんのリハビリを行いました。
患者さんが、少しでも自分の気持ちを伝えられるよう話せるようになり、食べることの楽しさを取り戻すことができた時に、この仕事をしていて良かったと感じます。

◎言語聴覚士を目指す学生達の声

- 「声」「ことば」という目に見えないものに興味があり、志望しました。
- いとこの子が、ことばを覚えるのがゆっくりでした。ことばがたくさん出てくるような関わりを知りたくて志望しました。
- 心理の世界に興味があり、また、それを知る事で自分のコミュニケーションの為にも、また、人の助けになる事が出来ればと思いました。
- 祖父を通じて、嚥下障害を知りました。安心して食べてもらえるような方法を知りたくて言語聴覚士に興味を持ちました。